

二〇〇七年

賀
正

年頭の挨拶

(社)沼津建設業協会

会長 渡邊 康一

協会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。
輝かしい新年をご家族ともども健やかに過ごしになり、
新たな決意を胸に、新春のスタートを切られたかと思
います。

昨年もすべての協会活動に対し、協会員全員のご協
力をいただき、スムーズに運営できましたこと、改めて
お礼申し上げ、本年も昨年同様のご協力をお願いいた
します。

さて、我々建設業界を取り巻く環境の変化は年々加
速度を増しており、過去にない激動の時代に突入した
ことは紛れもない事実であります。

昨年一年を振り返りますと、年当初は一昨年より法
制化されたいわゆる「品確法」による総合評価方式入
札が、広くスムーズに全国に広まり、野火が枯野を焼
き尽くすがごとく広がりつつあるダンピング入札に歯
止めを掛けるのではと、大いに期待をしましたが、地
方自治体までの浸透にはかなりの時間がかかると予
測されるのが現状であります。

それどころか、昨年後半より全国で続々発覚した
県レベルでの入札に関しましての不祥事は、改めて
建設業界に対する世論の評価を下げてしまい、品確
法を最後のカードとして、新たな公共調達システ
ムを構築すべく確実に第一歩を踏み出した矢先の
業界としては、残念でなりません。

このような現状の中、我々業界は果たして何処にどの

ように、着地、もしくは漂着するのでしょうか？

この問いに対して明確な答えを出せる者はいないのが現実であります。

しかし、現状は各地域間による業界の形態の差が
企業間に格差を生みつつあるのも事実であり、この
ままの微妙な二極的バランスがどこまで保てるのか
の確信は誰も持てません。

少なくとも地方における経済の相当の分野に、
公共投資を通じ貢献し続けたと自負してきた我々
業界が、真の経済競争とは何か？を問われ、その
答えをダンピング入札だとか世論に対し答えられ
ず、このまま推移するのであれば、いずれにしろ
この業界は崩壊するでしょう。

しかし、それを防ぐ手段を過去の手法にしか見
出せないとしたら、この業界の真の発展は永久に
訪れないのかも知れません。

いずれにせよ我々の置かれた、厳しい環境をい
かに乗り越えるかは我々の自助努力でしかないこ
とも明白な事実であります。

新たな希望に満ちた年が、会員各社の繁栄と
協会の確実な進化に繋がりますことをお祈り申
し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

い
し
ず
え沼津建設業協会
広 報 誌編集・発行
沼津建設業協会広報青年委員会
沼津市御幸町17-12
電話(055)932-8311
<http://numazukenkyo.jp/>
発行日 隔月1日

未来に向けて

第69回

日本人の美しい心

(株)林組 林 則夫

古来より日本人が営々と培ってきた「自然や神仏に対する畏敬の念」や「伝統文化を大切にしたい心」は失われてしまったのでしょうか。

その国の伝統文化は、民族の長い歴史の中で受け継がれてきたもので、その民族を象徴しています。つまり日本の伝統文化を見れば、私たちの祖先がどのような自然観や人生観を持っていたか、何を尊び、何を畏れ敬ったかが分かります。

日本の伝統文化の中でも、二千年の歴史を持つ伊勢神宮は、私たち日本人の心の拠り所として悠久の時を刻んできました。そして、神宮で執り行われる様々な伝統行事は、日本人の美しい心と美しい生き方を現代に伝えています。

とりわけ世界に例を見ない神事として「式年遷宮」が挙げられます。式年とは定まった年という意味で、神宮の神殿の隣接地に同じ広さの宮地がもう一つ用意されており、伊勢神宮では二十年に一度、社殿を同じ姿で隣に新しく造り替えるのです。

第一回の式年遷宮は六九〇年に執り行われ、以来千三百

年もの間今日まで脈々と続けられてきました。ちなみに次の式年遷宮は平成二十五年に執り行われる予定です。

その式年遷宮の中でも、最も勇壮で賑やかなお祭りが「お木曳」です。二十年に二度の遷宮。新しいお社造営のために切り出した御用材を、伊勢の町々が自慢の「お木曳車」に乗せて神宮神域に曳き入れるお木曳は、伊勢神宮の悠久の歴史を見守り続けてきた伊勢人の晴れ舞台なのです。

町内ごとに揃いの法被を着て、音頭に合わせて掛け声も威勢よく、老いも若きも入り交じり、お木曳車から伸びた長い綱を力強く曳きます。このときばかりは、昔も今も伊勢の町々に勇壮な木遣り唄が響き渡ります。

ではなぜ二十年に一度なのでしょう。その理由については諸説あるのですが、その一つが耐久性によるものです。伊勢神宮の建物は堀立萱葺の素木造りのため、柱は土の中に入っている腐りやすいのです。また、二十年もすると萱葺屋根には苔も生えるし草も伸びます。日本の神は常に新しい生命を

付与していくもので、神殿の汚損は具合が悪いのです。このような理由から二十年が限度なのだと考えられます。

また、神道には「常若」という考え方があります。これは神のお住まいは常に新しく気持ちよくしておきたいということです。この考え方も影響を与えているものと推測されます。

もう一つの理由は造営する側の技術の伝承です。二十年に一度という周期は建築技術や伝統文化を次世代に伝えるのに適しているのです。その結果、伊勢神宮は二十年ごとにみずみずしく蘇り、いつの時代にも生き生きと存在していたのです。

ご正殿をはじめ、すべての社殿を新築して御神体を遷すのですから、その準備には長い年月と膨大な労力が必要です。これが六十回以上繰り返されてきたのです。日本という国がいつまでも若々しく永遠に発展していくようにとの願いを込めて、神のお住まいを二十年ごとに建て替え、新しい息吹を吹き込んできたのです。そのような伝統文化が千三百年もの長きにわたる「心の連続性」

となり、現代に伝えられていることは驚異的なことなのです。日本人の知恵とその精神の素晴らしさには心から感服いたします。

現代の日本社会に目を向けると、社会と人心の荒廃から様々な問題が噴出してきています。結局、日本人が自国の歴史を忘れ、伝統を忘れ、文化を忘れ、そして郷土愛も忘れてしまったのです。そして日本人としての誇りと自信を失っているのです。ここからありとあらゆる今日の人々の精神の荒廃やモラルハザードに起因する諸々の事件が出てきているのではないかと思われるのです。

どこそこが悪いという表面的なことではなく、今日の日本社会が陥っているこの閉塞状況がどこからきているのかということについて、問題の根本に立ち返らなければならないと思います。

結論的には、自国の歴史、伝統文化に基づいた日本人としての生き方の喪失が根本原因なのだと思います。このことを今こそ見直し、考え直すことが何よりも大切なのではないのでしょうか。

特別寄稿

「水の惑星」

生命の営みのある地球環境を考える (64)

環境カウンセラー 保坂貞治

問題6

(8)ダイオキシン問題

燃焼によって発生したダイオキシンは大気の中に入り、雨水にとけて河川や海を汚染する。水や海水に溶けたダイオキシンはプランクトンに吸収され、それを食べる魚介類や水棲動物の体内に入る。厄介なのはダイオキシンは分解し難く、水に溶け難く、油(脂肪)に溶けやすいことにある。水に溶けやすければ体内に入ってもやがて血中の水に溶けて尿と一緒に排泄されるが、脂溶性であるため脂肪に溶け体内に蓄積されることにある。更にこのダイオキシンが蓄積された動物を食べると捕食者の動物の体内に吸収され、排

泄されることなく順に捕食者の体内に蓄積されることになる。従って肉食の動物は高次の消費者ほど高濃度のダイオキシンを蓄積してしまう結果となり、高濃度に蓄積した動物に障害が起きますのです。したがって魚介類や牛、豚、鶏等にはある程度のダイオキシンが蓄積されている。人間も当然蓄積された動物の肉を食べるのでダイオキシンは蓄積される。脂肪を含む母乳もダイオキシンを含み、母乳を通して胎児や乳幼児の体内に蓄積されていく。

日本ではダイオキシンの一日の最大無作用量を1ng/kg体重(1ng=1g/10億)にしてお

対策、ゴミ処理の効率化、リサイクル化の研究対策が進められた。

欧米ではダイオキシン対策が早くからとられていた。その背景には深刻な環境汚染問題があった。アメリカでは枯れ葉剤を生産していた工場跡地でダイオキシンが発見され、周辺住民は町ごと移住した事件があった。イタリアでは農業工業が爆発事件を起こし、ダイオキシンで汚染された住民は移住した。共に一九七〇年代の事件であった。こうした事件がダイオキシン対策を促進し、化学工場や都市焼却施設に目が向けられ大気中や排水、土壌汚染を起こさない管理が行われたのでした。

ダイオキシンは、一三〇〇℃の超高温で燃焼することにより分解できるという厄介者で、ダイオキシンは無色無臭の結晶である。日本では一九八三年焼却灰にダイオキシンが含まれていることが報道されたが、話題になる程度で厚

生省は廃棄物処理に係わるダイオキシン等専門家会議でゴミ焼却炉から出るダイオキシンは、その段階で健康に影響が見いだせないレベルであると発表した。八十六年のダイオキシンの測定結果のときも安全宣言されている。九十年になり廃棄物処理に係わるダイオキシン類発生防止等ガイドラインが設定され、焼却施設への指導が行われるようになった。しかし九十年以降は具体的進展がなく、対策は棚上げされていた。その間ダイオキシンは排出され、ゴミ焼却施設周辺でガンの発生率が高いのではないかと疑われた。マスコミがダイオキシンの問題を取り上げるようになり、九十七年ごろより実質的調査を開始し、厚生省はダイオキシン緊急対策を発表した。調査施設の名前を伏せて厚生省は結果を発表した。

雑誌「道路」昭和三十六年十二月、読書の声欄「酒と人生」から

「酒は、百薬の長。」というが、酒には、医薬的な効果はない。飲み過ぎて、胃をこわし、腸を損ね、肝臓病の遠因となる、飲み物なのだ。

先祖代々の、財産まで呑みこんで、あたらしい小便の量を、殖やしてきた人は、数限りない。然し、精神的治療効果は大きく、時には、安定剤となり、時には、興奮剤となる。だから、効果は、百二十%ある。

酒が、人間社会の、モビール油として、役立った功績は大きく、庶民をはじめ、実業家や、政治家にも、愛されていて、日本独特の「宴会政治」などという言葉さえ生まれたが、日本人のように、興奮しやすい人種の、妥協点発見剤には、酒席が、一番適している。昔から喧嘩には「仲直り酒」がつきもので、酒が入れば、一件落着した、日本の、この良習？は、一朝一夕には改まるまい。

アメリカで、禁酒法が制定されたことがある。当時の新聞や雑誌は、禁酒礼讃の記事で埋まり、「酒は麻薬で、人類の敵。」だから、一刻も早く、アメリカ全土から、酒を抹殺すべし、という論調が、溢れていた。禁酒婦人連盟を

中心とする、この主張は、全州の同意を得て、見事に国会で成立した。恐るべき、婦人の国アメリカの、ウーマンパワーが、ものを言った。禁酒法の制定だったが、一度覚えた酒の味は、男達にとっては、忘れられないので、夜になると、暗の密造酒を探しまわった。結局は、取締りが、有名無実なものとなり、数年後には、廃案となった。

日本では、岩戸神楽の始めから、女なしでは、夜の明けぬ国であり、女といえば、酒

わる。

建設業に携わる人々を、「土方」と呼んで、昔から、下層階級の代名詞としてきた。「土方、馬方、船方」を、御三方と称して、上流の御三家に対して、蔑視する言葉として用いられてきた。素裸に、フンドシ一丁をつけ、ワラジを履くのが、典型的なスタイルだったから、衣装代もかからず、特別な技術も必要としなかったで、食いつめ者の終着駅であつたのだ。「馬子にも衣装、髪かたち。」とまで言わ

見られていて「三キ」が流行した時期があつた。「キツイ、キタナイ、給料が安い。」職業である、ということだが、世の中を見渡せば、九〇%が中小零細企業で、みな「三キ」に甘んじているのだから、建設業ばかりが、特別ではないと思うのだが……。

世の中が変わり、機械が発達し、コンピュータの時代になつても、建設業が、重労働中の重労働であることは、昔と変わらない、大変な仕事だ

古雑誌の随筆（その四十九）



後藤貞一

で、岩戸の前に集まつた。八百よろずの神々は、ドブロクをききしめして、景気の良い歌声を挙げたので、かの天照大神も、つい、ふらふらと、岩戸をお出ましになつたという。日本の開国は、やはり、酒に始まつたと考えられる。

日本では、御神酒の上らぬ神様は無く、神と酒とは、きり離せない。庶民は、そのお流れを頂戴して、悪病を祓い、御利益を授かる。人は、誕生から墓場まで、喜びにつけ、悲しみにつけ、酒がついてま

れ、その地位は、まさに最下位であつた。

現在でも、マスコミは事件の加害者といえ、土木作業員と呼ぶが、職業は？と聞かれ、土方です。と言う人は多い。大部分は、建設会社の職員であり、月給をもらっている「会社員」である。警察が無知なのか、マスコミが無関心か知らないが、「○会社社の社員」ぐらいの報道にしてもらいたいと思う。会社とは言っても、零細な建設業は、職業としては、下層に

と思う。

日暮れ時の居酒屋では、赤銅色に陽焼けした、愛すべき、我が同志が、タコの足を、かじりながら、コップ酒をおおっている姿がある。彼等の顔は、一日の労働を終え、人間としての責任を果たした喜びが溢れている。思わず「労働は神聖なり」と声をかけたくなる。

酒は、体力回復剤であり、明日のための栄養剤でもあり、生活必需品なのである。都会の街裏のキャバレーや、

温泉地などで、女性を相手に呑んでいる酒と較べれば、如何に健康的で、明るいのは、誰の目にも、明らかなことだ。

酒といえば、灘の辛口、伏見の甘口が、全国に知られ、関西に有名酒が多く、関東は劣るとされているが、これは材料となる水の質の問題で、適度のマグネシウムやカルシウムを始め、醸造に必要な、諸成分の含有量に、差があるということらしい。重要な事は、今では、何時でも何処でも、手に入るから、こちらは問題にならないらしい。

酒造りの技術者は「杜氏」と呼ばれるが、越後、出雲、諏訪などの、雪深い地方の出身者で、それぞれが、神話の時代からの歴史を持っている。酒造りの秘法は、一子相伝で公開されないから、今でも、その伝統が、脈々と伝わっているのだから。

春の桜、秋の紅葉、冬の雪等々、日本の山野は、四季を色どり、衣装を変えて、酒興を添えてくれる。

春になって、木々が芽生え、期待に胸がふくらむ季節は、我々の気持ちも改まる。

人間もまた、自然界の一員であつたと、実感する。

新年を迎え、今年こそは、例年にも増して、元氣の出る年となるよう期待して……。

静岡探検倶楽部

第三十九回 随想 静岡東西考

文 井下 秀文

このコーナーに駄文をつづり続けて七年目。面白い面白くないかは別にして、マイペースに県内の知られざるフィールドやネタを書いてまいりました。

しかしいよいよ方針転換を考えなくてはならなくなりました。なんと筆者が静岡を離れることになってしまったのです。こんどの春からは仕事の都合で岡上で暮らし始めます。いつから岡山探検倶楽部とするか、あるいは全く別の内容にしてしまうか、まだ決めてないですが、まだしばらくは静岡のネタで書けると思います。

今回は静岡を回顧し、その特徴を再認識してみたいと思います。

まず静岡に何があるか。

交通機関においては、新幹線の駅が六つあり、東名高速のインターチェンジが十六あ

る。このことから、静岡県は広いといえる。東海道本線の営業キロによると、熱海から新所原まで一七八キロであつて、この距離を東京起点からとすると、実に東静岡までと同じとなるのだ。静岡から同じ距離だけ西へ向かうと名古屋になってしまふ。通り抜けるだけでひと苦勞する長さがあるのは、気のせいではない。

このほど新生活の下見で静岡市から岡山市まで、クルマで高速道路で移動したが、六時間半かかり距離は六〇〇キロあった。その間六つの県をはさんで七つ目が岡山県であった。途中の県が大きくないところばかりだとしても、だいたい一〇〇キロごとに県が変わるのがふつうであつて、

やっぱり静岡県は広くて長い。広大な県土を、複雑な地形が刻んでいる。日本一高い富士山があれば、日本一深い駿河湾がある。富士山は火山としてあの形になって、規模といい形といい、実に理想的な造形をしたものだと思う。南アルプスから続く山々は地形と地質が変化に富んでいる。富士川・安倍川・大井川・天竜川といった河川は生活文化圏を分ける大きな川である。これらはまさに南アルプスから流れている川であるが、実に日本有数の急流で、上流部で深く谷を刻み、中下流の広い河原は石ころだらけの独特の景観は、静岡ならではのものである。

駿河湾が深いのは、この地にフィリピン海プレートとユーラシアプレートがひしめいているからである。フィリピン海プレートの上に伊豆半島が乗っているが、ユーラシアプレートに食い込んでいる。これにより地震活動や火山活動が誘発されているのだが、

伊豆箱根の重要な観光資源でもある。石廊崎と御前崎の距離は変動しているそうだが、交通手段や道路を考えると、いつも東海道沿線の東西方向でばかり考えがちである。もし下田から長野県飯田まで移動するとなったら、いったい何時間かかることだろう？ 隣り合った県であるのに、あり得ないような大旅行の扱いであろう。南北の移動は、南アルプスが大きく横たわっために地形的な制約を大きく受け、道路事情も鉄道交通もきわめて不便なのである。長野に行くのはいつも苦勞する。

しかし南アルプス周辺の山々は自然の宝庫で、人跡稀な箇所がいくつもあり、野生度が高い場所がたくさんある。原生を感じることができる場所があるというのは貴重である。これは道路が通じていないので、たどり着くまでに労力を要するために、あまり人が入らないことによるものである。よって現地情報もなかなかなく、魅力を紹介する場が滅多に見られないのはもったいない。しかし大きく横たわる山

のかたまりを、ジャマなものとか決め付けずに、どんなものかを知ることが、大事なことじゃないか。

東西の交通の流れは便利だとよく言われるが、東部中部はほとんど一方的に東京志向である。西部は名古屋志向の流れもある。しかし新幹線では山陽方面直通の便がなくなつてしまった。

県外に出ることを考えずとも、静岡県の東中西はまったく独立したような存在で交流はなく、互いを知らない。古来の文化は川筋で伝来発達しているのだろう。パリエーションが豊富だが、まとまりがないような気がするのである。観光資源にしても文化にしても、そう感じる。

いづれにせよ、広い静岡県はさまざまな要素を含んでいて、構成を知るほど面白い。しかしその面白さはあまり周知されていない。そこがもつたいないのである。それにしても、この文も何だかまとまりがないものになつてしまいました。

「からだづくりの教室」便り (21)

宮本 摩知



「からだづくりの教室」の基本は

よく噛むことから

食することは生命力につながる基本です。わかっていることですがあえて申しますと飲み込むのではなく、きちんとよく噛んで唾液とよく混ぜ合わせて食べるのです。

よく噛むことは消化の助けになるのです。唾液も大事な消化液です。唾液から発する信号がこれから体内に入っていくものをお知らせし、全ての消化器が受け入れ準備をするのです。ですからよく噛まないで飲み込んでしまうとその信号や受け入れ準備が無いままに胃袋に入っていくので、それは胃袋にかなりの負担をかけることになります。

胃袋だけでなく、その先の腸にも影響するのではないのでしょうか。赤ちゃんがよだれ



をいっぱい出しているのは消化がよくできることなのです。(ですが、最近よだれがいつばいの赤ちゃんが少ないことに、不安を感じます) 余談ですが自分は赤ちゃんの時から便秘です、という人がいます。大人になっても便秘で、吹き出物に悩んでいたり、薬を飲まないで自力で排便できない人が案外多くいます。中には何年も薬を飲み続けているという人もいます。

噛むことは、あまり気づかないことかもしれませんが、脳にも大きな刺激を与えているのです。身体その他の部分のようになたえば脳を揺さぶったりマッサージしたり揉んだりではできません。脳は顎関節の動きのみが刺激になるのです。ご存知のように肩から上の部分(頭部)には関節はひとつしかありません。顎関節です。

顎関節を自在に動かすのは噛むことです。あるいは、口の中に物は入っていないけれどもよく動かす。つまり顎の運動と話をすることなのです。更に重要なことです。噛むことは腰の強さにも深い関係があるのです。噛む力が弱いと実は腰の力も

弱いのです。

広い世界のどこかの国では、子供の歯が抜けて大人の歯が生えてきたら学校に行くことになる、聞いたことがあります。これは噛む力、いわゆる脳の働きがよくなることと、腰の力がつくこと、それが活発に生きる、あるいは頑張る力のある体、踏ん張りのきく体になることを意味すると思います。

よく噛み唾液がたくさん出ると歯のおそうじにもなるそうです。虫歯予防になります。口に入れた食べ物が十分に噛み砕かれ、すりつぶされ、消化液とよく混ぜ合わされ、食べ物の栄養分が全て吸収できる状態になれば身体に負担になるようなことにならず、効率良い消化機能が養われます。このように噛むこと、顎関節を動かすことは身体には大変重要で、マイナス面はひとつも無いと思います。食べる時しか顎を動かす機会が無いのであれ、その機能を十分に發揮して食事をしていただきたいと思います。



左 右



上 下

イラストの解説文

- 一、上下の歯をいい音が出るように気持ちよく動かす
- 二、下の顎を左右に大きく動かす
- 三、下の顎を前後に動かす
- 四、下の顎を左にずらしてかちかちたたく、右にずらしてかちかちたたく

御厨の古今 (10)

富士の巻狩の遺跡と伝承 (2)

勝間田 秀彦

三、仁田の田

御殿場市鮎沢公民館の南二百メートルほどの国道一三八号のバイパス沿いに、広々とした田んぼがある。ここは仁田四郎忠常の陣屋跡といわれている。仁田四郎忠常は伊豆国韭山の仁田の庄の人で豪遊をもって知られている。富士の巻狩りの時も、この人ほど逸話の多い人は珍しい。頼朝の本陣めがけて飛びこんできた手負いの猪に後ろ向きに飛びのり、腰の小刀で猪の背中に切り付けて仕留めた話や、曾我兄弟の仇討では曾我十郎祐成を討った事など有名な逸話が残っている。

四、千貫

狩渡戸橋を鮎沢川沿いに暫くさかのぼると和田橋という橋がある。その和田橋の南三百メートルの所は「千貫・あるいは千貫屋敷」と呼ばれる

こんもりとした繁みになっている。昔はお金を一貫匁、二貫匁……と数えたということから、富士の巻狩のとき將軍

(頼朝)からお金を預かり、保管した場所と伝えられている。また現在はどこにいつてしまったか不明だが、「カネブタ石」というそのお金を預かるときに用いた石があったと言う。

五、舞台

和田橋の南二百メートルのところに、小さな祀がある。この辺りは「舞台」と呼ばれ頼朝が祝宴を開いたところと言われる。

六、御所

和田橋から東山のほうへ行くと、右の方に茅葺き屋根が見えてくる。

ここは御所五郎丸の陣屋跡といわれており、「御所」と呼ばれている。



五郎丸は豪遊をもって知られ、富士の巻狩のころは小舎人五郎丸と呼ばれていた。曾我兄弟の仇討ちのとき、弟の五郎時致が「御前(頼朝)」を差して奔走する」ところを搦とった、とその功績により御所五郎丸と名を改めた。

七、和田

和田橋の西側に和田という地名が残っている。ここは和

田義盛の陣屋跡といわれる。和田左衛門尉義盛は三浦義明の孫で、頼朝が伊豆で旗あげをしたときから、御家人として仕えて数々の武勲をたてた。頼朝の信任も厚く、後に鎌倉幕府の侍所、初代別当になっている。

八、和田の森

和田橋から横道へ抜ける東田中と新橋の境に浅間神社がある。ここが「和田の森」と呼ばれる。富士の巻狩に侍所の別当として和田義盛は、一時狩の手を止めて和田の小高い丘の上に腰を下ろした。そして家臣の差出した昼食の包みを開いたが、箸が無かった。驚いた従者は早速、近くに生えていた楓の枝を折って箸を作り、御大將に差出した。

昼食を終えた義盛は、その場に著を差して再び巻狩りに出た。やがてその箸から芽が出て大木になった。そして樫や櫟とともに大きな森ができ、何時の頃から和田の森と呼ぶようになった。

九、瘤木

狩渡戸橋からJR御殿場線

に沿って西に向い、江藤氏宅がある。江藤家は「田中の瘤木」という屋号がある。その由来は頼朝が巻狩のとき本陣に幕を張るため打った楓の木に根が生え大木となり、大小無数の瘤をつけたことから、地元では瘤木を「コブツキ」と呼ぶ。

十、冨塚

和田橋から鮎沢川沿いに二百メートルほど北へ下ると、こんもりとした丘がある。ここは冨塚と呼ばれている。頼朝の本陣がすぐ近くにあることから、狩屋塚ともいわれる。頼朝はこの丘の上から、狩に出陣する軍勢を見送ったり、夜狩が終えて陣に帰るとき篝火を炊いていてその位置を知らせたという。



和田橋

(次号につづく)



年男からひとこと



亥年生まれから一言



(株)飯田建設工業
代表取締役
飯田 恵一郎

亥の年男として六回目を迎えて、その間七十年余を振り返ると、走馬燈の様にあの時この時の事が脳裏に浮かびます。正に「光陰矢のごとし」です。

顧みると戦後の日本経済は廃墟から復興・再建、繁栄へと向かう途上で、経済性と利便性のみを追求し急成長しましたが、その反面、日本本来の姿である人の心が失われた様な気がしてなりません。

最近、新聞テレビ等で公共工事に対する談合問題がにぎわっており、諸悪の根元は建設業界に有る様に連想されておりこれを拭い去る為に、地域社会に対して社会的信頼をより一層構造させる為に業界を上げて最善の努力をする事が肝要と思います。

今、建設業を取り巻く環境は著しく変化しており、それに対応する為に日頃からの経営基盤を安定盤石にする為に、技術力をより一層磨く必



(株)松井建設
代表取締役
松井 利夫

要が有ると思います。結びに、誇りと自信を持って社会に貢献しようではありませんか。

明けましてお目出とうございます。この度、年男の原稿依頼があり、十二年前に書いた事を思い出し「いしすえ」を、広げて見ました。昭和五十八年(亥年)当時の会長白井三郎様の時、広報委員が発

足され、第一号「いしすえ」が発刊され現在で、二十四年第一四〇回になるようです。発刊当初より建設業の厳しさについて「建設業に未来があるのか」「未来に向けて」「建設業にとって今何が必要か」等々各先輩諸氏の模索が伺えます。又広報委員の皆様には、二十四年間の永きに渡り、原稿の取りまとめ、編集等に、御努力され改めて敬意を申し上げます。これからも頑張ってください。



(株)二葉建設
代表取締役
勝間田 久嗣

さて、超厳しい平成十九年(亥年)はただ前に向かってツツパシルばかりでなく、前後左右又、「未来に向けて」を考えながら、頑張っていきたいと思っています。



亥年は十二ある干支のアンカーです。私もいつの間にか五回目の年男になり、還暦を迎えました。

私が生れた昭和二十二年は日本国憲法が施行され基本的人権、主権在民、平和主義が民主国家建設の基盤となりました。今、憲法も還暦を迎え、憲法改正の国民的論議を呼びつつあります。

その社会の中で私ども中小企業は出口がはっきり見えないう建設不況にあえぎ、何が起るかわからない不透明な社



(株)千代田産業
代表取締役
勝間田 啓司

会の真只中にいます。創業者から引き継いだ事業を守り、育てていくために必死で歩んだ年月でした。猪生れの性格は忍耐強く向上心あり、障害を気にしないで進んでいく行動力もあるが、大望も貫くほどの強気な気性。あとさき見ずの気早にて人々に憎まれ、損をするとの言い伝えもあります。還暦という人生の大きな節目を迎えた機会に今まで歩いてきた半生を振り返り、反省すべきは反省し、信念を貫くところは貫き、明日に向かってより確かな一歩を踏み出したい。

明けましておめでとうございます。亥年生まれの還暦と言われても全く実感が無いが今年中には確かに満六十歳となる。団魂の世代のトップバッターとして迎える二〇〇七年、同級生仲間皆、人より若いと思っているが「飲む話

年男からひとこと

亥年生まれから一言



題、介護、年金、定年後」である。とても懐古趣味などにひたる心境になれないしその環境にもない。しかし人生には上り坂、下り坂、まさかが有ると言われるが、特にまさかは人並みには経験させて頂いたと思う。

「物忘れ、増えて夫婦で一人前」の川柳ではないが今日迄、同じ趣味や価値観を持って付き合ってきたくれた山の神には感謝の意を表したい。

満開の桜も素晴らしいが、葉桜も風情がある。咲き誇るのも善し悪しである。下り坂の味も知れば楽しいと思いつつ、近道で遭難しないよう又一升辨には一升しか入らないと改めて自覚して新たなスタートの年としたい。



落合建設(株)
代表取締役
落合 孝佳

新年あけましておめでとうございます。

「年男から一言」、この原稿のお話は今回が二度目になります。最初に原稿を書いた平成十二年は、バブルが破綻し、不況の波が押し寄せていました。

あれから十二年、あつという間の十二年でした。日本国内は景気の回復がすすみ、昨年日本銀行はゼロ金利を解除、国の税収も五十兆円を超えようとしています。

メガバンクにおいては、かつてない経常利益を上げ、不良債権処理、公的資金導入などと言う話は、遠い過去の事のようにです。国内景気の拡大は戦後最長に、いざなぎ景気を超えたようです。

緩やかながら確実に成長を続ける日本経済、何故かピンとこないのは私だけでしょか。この景気の拡大は、企業による好調な輸出、設備投資、

そして人件費の抑制などリスクが背景にあり、個人消費は伸び悩んでいる。実感がないわけです。私たち家庭の台所が一日も早く回復し、本当の意味での景気の回復を実感できる年にしたいものです。



(株)田代建設
代表取締役
田代 和美

本年度で四十八歳。我が人生の半分以上を建設業に携わっています。当初は右も左もわからなかった私ですが、多くの人に支えられ無我夢中でここまでやってきました。

振り返るとこの業界は高度経済成長からバブル景気に乗って一代成長を遂げましたが、現在は特に低価格・高品質が要求されています。それと同時に、経験と知識を必要とする技術者の在り方が問われ、若い技術者を育てるのに各社試行錯誤していることと思います。

四回目の年男として目標を



大藤建設(株)
代表取締役
町田 直繁

あけましておめでとうございます。皆様には、新しい年を健やかに迎えたいと心からお喜び申し上げます。

今年は「亥年」で私は四度目の年男となります。思い返せば、一回り、二回り前の私は猪に特有な猪突猛進型であり、何事も自分で決めた目標

年男からひとこと 亥年生まれから一言



に向けて、一直線であり脳裏には、いつも成功するイメージしかありませんでした。良く言えば「チャレンジャー」であり、悪く言えば「無鉄砲」であったと思います。

しかし、猪には猛進する前に一歩二歩後退する癖があるそうです。どうやら生来用心深いのも猪の特徴のようです。斯く言う私もその「用心」に一層研ぎをかけて、この時世の難局を乗り越えたいと思います。

例年続く異常気象のせいか、山に獣達の食する木の実が不足し、人里に出没しては、人に危害を加える獣が多いと聞きます。皆さん、くれぐれも今年の「獣」には、ご注意ください!!

さて、これから長い人生を歩んで行くうえで、健康管理に努めたいと思います。医者は、「老化は足から」と申します。足腰を鍛える為の適度



な運動に心がけましょう。さあ新年、上を向いて胸を張り、今年も一年、春夏秋冬おかないしに青空を仰いで元氣良く、身も心も暗れやかに明るい笑顔で頑張ろう。



(株)河西建設
代表取締役
河西拓真

新年明けましておめでとうございます。

今年で三十六歳になります。会社に入社して十年、代表取締役に就いて四年になります。が、業界の激流に敗けない様に必死に踏んばってきた感があり、自分自身の考えていた事が中途半端に終わっている様に感じます。三回目の年男を迎えた今年からは、自分の考えを実践する十二年とし、前向きな社業発展に努めていきたいと思っています。

「前例なき事に知恵とやる気で挑戦する」

十二年後の「年男からひとこと」では、結果を報告したいと思っています。

お知らせ

献血へのご協力をお願い

静岡県沼津赤十字血液センターより、左記のとおり協力依頼がありましたので、会員の皆様のご協力をお願いします。

記

・日時 一月十七日(水)

午前 九時三十分～

午後 十一時三十分～

午後 十二時三十分～

四時〇〇分

・場所 (社)沼津建設業協会

主要行事予定

◎ 建産連賀詞交歓会

日時 1月9日(火) 11時～

会場 ホテルアソシア 静岡ターミナル

◎ 月例安全パトロール

日時 1月12日(金) 9時～

場所 沼建協沼津地区管内

場所 沼建協裾野地区管内

場所 沼建協御殿場地区管内

場所 沼建協小山地区管内

◎ 年始強化パトロール

日時 1月26日(金) 9時～

場所 沼建協全管内

◎ 沼津地区木建協安全パトロール

日時 2月14日(水) 13時～

場所 長泉町・裾野市内

◎ 沼津地区木建協安全パトロール

日時 2月15日(木) 13時～

場所 御殿場市内



安全標語

◎ 事故は 慣れから 油断から

一人一人が 安全確認

白井 達也 白幸産業(株)

◎ 追われる工程 事故の元

築山 欣司 クリーンサービス(株)

言いたい放題

又してもお詫び会見、日本は一体どうなるのだろうか。

汚職・裏金問題・殺人そしていじめ、自殺……と、この頃は世の中を暗くする様な事件が相次いで起こっている。いつからこんな世の中になってしまったのだろうか。

かつて私達の家庭は、父親を家長として家庭の団樂と團結があった。祖父もいる多勢の家庭の中で厳しく躰られ悪い事をすれば父親の雷が落ち、その陰で優しく諭す母の慈愛があった。近所も向こう三軒両隣の助け合いの中で社会生活のルールを身につけ、親類の人達にも迷惑をかけぬよう、恥をかかせぬように努力してきた。そうした家庭、親類縁者、近所との固い絆で愛情に裏打ちされた厳しさの中で、耐える事・我慢する事を体験して、人間が形成されてきたような気がする。

戦後六十一年、民主主義の名の下に、価値観も多様化し

個々の人格が尊重される時代とはなったが、反面人間関係は希薄となり、少子高齢化で子供たちはますます大事にされ、甘やかされるようになった。

ネット、メールなどに依存しすぎる現状、そしていじめ、自殺、よく言われるニートやバラサイトシングル……私達の未来を託する子供達がこんな状況で良いのだろうか。子供は親の背中を見て育つと言うが、子供は大人社会の鏡とも思われる。子供の問題を単に社会の問題として看過して良いのだろうか、それだけでは何の解決にもならない。

「明日、生きているかどうかかわからない」と言う戦時中の緊張の毎日の生活に比べ、平和になり、物が溢れ、欲望はとどまる事をしらない。感情

情のおもむくままにキレて相手を殺傷する。いじめに堪えきれず自殺という行動にでる。「人の生命は地球より重い」と言うことをこのような人達にもぜひ理解してもらいたいものだ。

人生は一度きり、生きていさえすればまだ経験してない未知の世界もある。きつい事もあるが、恐れず挑戦し自分の潜在能力を開発する事もできる。いじめからくる自殺の連鎖に歯止めがかからない。「理由の何故」にかかわらず絶対死んではいけない。

何もない時代に一つでも買える幸せ。生命の保障のない戦争も終わり、平和な世の中になって「明日も自分の意思で生きられる」という幸せ。生かされている生命の有難さをしみじみ思う時、いじめに耐えきれず、折角この世に生まれてきた生命を「自殺というかたちでその一生を終わらせてはいけない」と声を大にして叫ばずにはいられない。

— T・S —



先日、息子連れ釣りに出かけた。

毎週日曜日の朝になると、四歳になる息子に遊ぼうと起こされる。言われるまま遊ぶと、午前中で体力の限界を感じる。

何か良い遊びは無いただろうかと考えていて、ふと思いついたのが釣りだった。

早速近所の川に行き河原で子供用の竿をわたし、二人で糸を垂れた。当然彼は釣りなど初めてで私をまねていた。

しばらくすると飽きたのか、彼は竿で水面をたたき始めた。これでは魚が逃げてしまうと、思い注意をしたがやめなかった。

仕方なく竿を取り上げようと彼の竿に手を伸ばすと、竿にずしりと重い感触。なんと魚が食いついているではないか。彼は水面をたたいていたのではなく、魚と格闘していたのだ。

彼と一緒に魚を釣り上げるとなんと三十センチのマスであった。

初めて釣り上げた大物に息子は大喜び。家への帰り道、「また行こうね。」とうれしそうに言った。

しばらく週末は釣り三昧の予感。

— T・K —



●現場代理人の声

山久建設(株)

林 紀宏



ここ何年か一人で現場を任せ、品質の良いものを安く早く作る事に必然と気持ちに向いていきます。その状況では高い技術のある職人を求めてしまっています。しかし、高い技術を持つている職人の高齢化が進行しているのが現状だと思っています。若い芽をじっくり育てていける余裕のある現場が少ないのも事実ですが、これから先二十〜三十年間仕事を続けていく上で品質の向上は続いていくだろうし、その他の要求も増えていくと思います。求められる品質等が上がっても技術力が低下して

は、それを補うのに大変な労力が必要となるでしょう。そうならな

いために今のうちから若い芽を育てていくように心掛けています。

同時に自分も日々頭と体を目一杯使ってスキルアップしていけるよう、これからも努力していこうと思います。

何年後かわからないけれど、子供や家族に自慢できるように……。

私の余暇
At one's leisure東静建設(株)
永田 進

余暇、何を書くか迷う。だ
って趣味は是となし、今自分
がやっている事を書きます。
これは余暇ではなく趣味に

なると思いますが、誰でもや
っている、ゴルフ、何年やつ
ても、シングルになれず、そ
ればかりが最近九十五を切
るのにやっとになりました。
飛距離だって落ちるし、チヨ
ットうまい人と回ると、距離
が置いてきぼりになって、自
信喪失になったりします。

バッテリーだけと思いきや、
老眼かけて芝を読んでも(読
めないくせに)ボールは自分
の気持ちと裏腹にこえやら。
自分でもいやになつてくる。
芝の上ではためなのに、あが
って食事になると、楽しみは
がらりと変わってしまう。疲
れて来てもども渴いて、冷た
いビールをジョッキで一杯、
今までの苦勞も忘れてしまふ。
シニアになつても、気持ちだ
けは誰にも負けないつもりだ
が。

もうひとつは、健康、なか
なが行けないが、スポーツジ
ムに通っている。最近では、
ブルのみ。週に一回はと。
思うのだが、お酒を一杯飲む
事は直ぐに参加するのだが、

ジムだけは、なかなか進んで
出席することができなくなる。

最初は水中歩行、前・横・後
ろ歩き、約十五分くらい、か
なりハード、水の中を歩くの
は抵抗がありかなり疲れる。

終わると泳ぎに入る。五十m
泳ぐのが精一杯、自分は愚遭
いが下手で、五十mで苦しく
なってしまう。その為五十m

泳いでは、休み、それを繰り返している。何回も言うよう
だが、かなりハードだ。私が
通っているジムは風呂は温泉
で、疲れた身体を温泉で、癒
す事は、大変気持ちが良い。

これも、年に鞭打って身体
を動かす事は良い事と思う。
余暇であつたかどうか、目
標、二つを実行に移すこと、
これがこれからの自分の課題
だと思ふ。

「粉骨碎身」



家族がみた 父親像

(株)勝間田工業

勝間田 裕子



この原稿の依頼を受け、息子に「書く?」とたずねると「なんで…。いいよ。(拒否の意)」と素っ気無い返事。高校一年生の彼にとって、面と向かって、父親を語る事は気恥ずかしいのでしょうか。その彼は最近、部活に追われ休日が無いのですが、たまに時間が空くと、父親を専属運転手にして、あちらこちらと振り回しています。それで

も男同士の時間を持てるのが、嬉しいようです。オーディオ、車、F1、野球…。私の関心のない話題で盛りあがっているのでしょうか。息子の学校生活など、私の知らない事を、自分だけが知っている、勝ち誇った顔をしています。甘い父親です。

子供中心の生活で、父親の存在が薄らいでいる現代、我が家も息子中心に動いているし、大抵の優先順位は、息子、私、お父さん。でもお父さんの存在は絶大です。(身体も含め)仕事に対する真剣な態度、多くの人からの信頼、そしてなにより、家族を大切にする気持ちを、言葉だけではなく、実行してくれる。お父さんは、我が家の立派な大黒柱です。(ちよつと誉めすぎかな)その大黒柱を倒さないように、深酒は程々に、若いとは言えない身体をいたわりましょう。私達家族も、微力ながら支えとなります。いつか、息子が父親となる日まで、いいえ、一生頼れる父親でいてあげて下さい。

ペット紹介



丸勇建設(株)

伊藤 洋之

迷犬プブを偲んで

我が家のペットというより家族のプブは、昨年十二月二十九日突然の心臓発作により、十一月十一日で九歳になったばかりの短い生涯を終えてしまいました。

プブは白黒茶色三色のキャバリア・キング・チャールズ・スパニエルという犬種で、私が長泉町のフリーダーから一月二十五日に長女の誕生日プレゼントとして購入してきました。

それまでは家族四人(妻、

娘二人)で川の字になって寝ていましたが、長女も六年生になるので自分の部屋で一人で寝られるように、長女のナイトとしてうちに来ました。

プブという変わった名前は、英語を習っていた長女が黒と茶色のブラックとブラウンの頭をとって名づけました。

キャバリアという犬種は、りこうで無駄吠えもせずしつけのしやすい犬で車での旅行や買い物にもよくつれて行きました。

三年程前から次女のナイトとして、パピヨンという犬種のみる君をプブといっしょに飼いはじめましたが、パピヨンは非常にうるさくて気難しく、プブのすばらしさが際立つ形となりました。

私は仕事中で、プブの臨終に立ち会えなかったことが残

念でありません。家族全員で二十九日にお通夜をし、三十日にお葬式をしました。

プブの遺骨は、今でも座敷の床の間に置かれています。

今では大学生になった長女も帰ってくると必ず線香をあげています。早くお墓を作って埋葬しなければならぬのですが、未だにその気になれません。十二月二十九日の一周忌までにはなんとかしようと考えています。

たまに散歩をしているキャバリアを見かけると、プブと散歩した日々が懐かしく思い出されます。



水谷美保子

白妙の富士に色映ゆ

初菫

水仙は一輪で足る

清しきよ

吉報を待ちわぶ今朝の

路の螢



せりざわきみよ

抱き取るみどり児の香の甘やかに

わが胸もとに漂ふあはれ

ひらきたる画集の馬の目鼻無く

しづかにわれと向かひ合ひたり

亡き姉の賜びしトリア三度目の

花をつけたり紫ふかく

協会の動き

技術・経営厚生委員会 同視察研修旅行の実施



技術委員会(委員長土佐谷和貴)・経営厚生委員会(委員長朝妻芳久)は、十月二十五日(水)～二十六日(木)の両日委員十七名が参加し、東京都・埼玉県内の合同視察研修旅行を実施した。

第一日目は、東京都の発注工事である「神田川・環状七号線地下調節池」を訪れ、第一期事業として竣工した神田川の洪水の貯留を目的とする取水・調節・排水施設や、第二期事業として建設中の普福

寺川の洪水の貯留を目的とする諸施設について説明を受けるなど、近代工法の粋を集めた当該工事の視察は、今後に大いに役立つものとなった。

第二日目は、「蔵の街川越」を訪れ、蔵を活かした街づくりなどを視察した。

経営者セミナー の開催

経営厚生委員会(委員長朝妻芳久)は、十一月七日(火)午後二時より当協会大会議室において、財団法人産業雇用安定センターの内藤克己参与・特定非営利活動法人(略称NPO)セフティマネジメント協会の安一生事務局長・同協会所属の株式会社エムアールエムの本木邦彦代表取締役を迎え、経営者セミナーを開催



した。

内藤参与より「雇用対策の新しいスキーム」・本木代表取締役より「事業資金対策としての保険活用法」について講義をいただき、雇用対策・保険活用についての理解を深めた。

出席者は、同日開催された広報青年委員会(委員長林則夫)の委員にも出席していた。だき、事務局を含め十七名であった。

高校生インターン シップ受入れ

沼津建設業協会(会長渡邊康一)は、平成十八年十一月九日(木)～十日(金)の二日間、技術委員会(委員長土佐谷和貴)の企画運営による「平成十八年度静岡県立沼津工業高等学校インターンシップ学習(就業体験)」の土木科三十名・建築科三十八名・計六十八名の生徒の受入れを行った。

会員二十四社が、それぞれ生徒二～三名を受入れ、下記一～三の新学習指導要領に定める事項を中心に指導を行い、生徒達より学校では決して学



ぶことのできない貴重な体験をさせていただき、大変勉強になったとの感想が多数寄せられた。

一、職業現場における実際的な知識・技術技能に触れさせることにより、学校における学習と職業との関係についての理解を促進させ、学習意欲を喚起させることに資する。

二、自己の職業適性や将来設計について考える機会を与えることにより、主体的な職業選択能力や職業意識を育成させることに資する。

三、教員や保護者以外の大人と接する機会を与えることにより、社会人とのコミュニケーション能力を向上させることに資する。

四、その他

建設業の魅力、社会人

として求められるルール・マナー、測量・設計の初歩的な技術(レベル・トラランシット・キャド)

安全委員会研修視察 旅行の実施

安全委員会(委員長高田弘之)講師合同研修旅行を、十月二十七(木)～二十八(金)日に参加者十八名で行ってきました。秋晴れの中バスは一路能登・和倉温泉を目指しました。途中、井波・瑞泉寺に寄り、木彫りの町を散策しました。宿に着き温泉で日頃の疲れを癒し、二日目は輪島の朝市と千里浜で日本海の越前クラゲを見て、なぎさドライブウェイを走り帰途につきました。バスでの長旅でしたが、参加者各々のコミュニケーションが図れ、「安全第一」で行ってきた研修旅行でした。



会員国内親睦研修 会の実施

経営厚生委員会(委員長朝妻芳久)は、十月二十一日(土)千葉県浦安市の東京ディズニーランド、東京ディズニーシーにおいて、会員等の親睦を兼ねた国内での研修会を実施した。この研修会には会員と家族や社員等百二十四人が参加し、施設見学、アトラクションやショップに立寄り、入場から終日午後九時までスケールの大きなイベントを楽しんだ。絶好の行楽日和と重なり入場制限が出る程の人数で身動きがとれないくらいだったが、それぞれに楽しい思い出をいっぱいにした一日であった。



地区だより

『総合評価落札方式』 を学ぶ



御殿場市建設業協会(勝又誠会長)は、十月十一日(水)午後一時三十分から御殿場建設会館において、平成十八年度活性化事業の一つとして、講師に県土木建設政策総室主幹石垣俊幸氏を招き、「品確法及び総合評価方式について」の研修会を開催した。この研修会には協会員と御殿場市職員合わせて四十名が参加し、熱心にメモを取っていた。

社会奉仕活動 『献血』に協力

御殿場市建設業協会(勝又誠会長)は、十月十二日(木)午



前九時三十分から午後三時三十分まで、県宅建協会駿東支部と共催して建設会館前広場で『献血』を実施した。この日は開始前から会員を始め、近くの市民もつめかけ、関心の高さを示した。その結果、昨年の実績を二十余名上回る八十三名が献血に協力した。

小山町建設業協会 ふれあい広場に参加

小山町建設業協会(河野一郎会長)は、十一月十二日(木)に小山町総合文化会館で開催



された、第二十六回ふれあい広場(福祉まつり&産業祭)に参加。

デジタルカメラで、訪れた人達の写真を撮り、その場で来年のカレンダーにプリントし無料でプレゼントした。この企画は好評で、毎年カレンダーを楽しみにして訪れるお客さまも多い。

又、隣接のコーナーでは災害防災マップや、着前・完成工事写真、ボランティア活動写真の展示、味自慢のたこ焼の販売を行った。

「防犯パトロール実 施中」等に取組む

御殿場市建設業協会(勝又誠会長)は、地域奉仕活動の一環として、街頭犯罪等抑止活動に取組むことになった。

この活動は、子どもを対象とした不審者事案が後を絶たないことから、御殿場市の要請を受けて、会員の車両に「防犯パトロール実施中」と「みんなでつくろう安心の街」のステッカーを貼付して巡回パトロールを実施する。

さらに、建設会館を始め、



通学路や子どもものの遊び場に近い場所に事務所を構える会員は、「かけこみー〇番のいえ」のステッカーを掲示し、子どもたちを犯罪から守ることにした。

ふれあい健康祭り へ参加

裾野市建設業協会(久保則久会長)は、十一月十二日(日)毎年恒例の「第二十四回裾野市ふれあい健康まつり」に参加した。当日は同協会が準備した、ミニユニボによるサイコロ振りや、介護車の体験乗車などを行い子供達や家族連れでにぎわった。



裾野市建設業協会 献血運動

裾野市建設業協会(久保則久会長)は十月十三日(金)、裾野市役所の駐車場で献血運動を行った。

献血は、同協会の「黄瀬川の会」が中心となつて社会奉仕活動の一環として毎年二回、三十年以上にわたり実施している。今回は県宅地建物取引業協会駿東支部と合同での開催となり、本年度二回目のもの。当日は協会関係者や一般の人々約一五〇人が献血に協力した。



「F1と交通渋滞」

皆さん、明けましておめでとうございます。新年を迎え、初めての野帳が、小山町

担当と言う事で、小山町の事を知らせたいと思います。

二〇〇七年、東京近郊である富士スピードウェイに三十年の歳月を掛けて、2007 JAPANESE GP in FUJISPEEDWAYが帰ってきたー

モータースポーツについての知識が無いが、地元への経済効果を期待したいところだ。

そこで、少し二〇〇七年F1日本グランプリの概要を調べて、読者の皆さんにF1がどの様に、地元への経済効果があるのか知ってもらおうと思います。

開催日程は、九月二十八日(金)～三十日(日)。大会名称は、2007 FIA・F1世界選手権フジテレビジョン・日本グランプリシリーズ。公認は、国際自動車連盟(FIA)・日本自動車連盟(JAF)。会場は、勿論! 富士スピードウェイ(コース全長四五六三m、最大直線一四七五m、標高五四五～五八〇m)

予定来場者数金曜日・五万人、土曜日・九万人、日曜日・十四万人、計二十八万人を想定している。

基本テーマは、どこまでも

美しい、いつまでも感動を! F1日本グランプリ in 富士である。

今回のF1は、東京近郊であるが、交通網の整備が遅れている事と、地元より交通渋滞の心配の声が上がった為、チケット販売の形式にチケット&ライドシステムを採用したと言う事です。

数年前に開催された岡山のF1に似た方式を採用した様だとレースに詳しい人は言っていました。

チケット&ライドシステムと言うのは、①鉄道+シャトルバス方式②乗用車+シャトルバス方式③各都市よりバス方式の三タイプを言うそうです。

①とは、前もってチケットに指定駅(三島駅・新富士駅・富士急ハイランド駅・大雄山駅・JR御殿場線の何れかの駅・小田急小田原線の何れかの駅)が指定してあり、そこからシャトルバスにて会場へ、②とは、前もってチケットに指定駐車場(関西方面からは、東名裾野ICを利用して裾野附近、関東方面からは、東名松田ICを利用して松田附近、

東京信州方面からは、中央自動車道を利用して河口湖IC附近)が指定してあり、そこからシャトルバスで会場へ、③は、旅行会社が行う各都市からのバスツアーの事です。会場近くには、オートバイか、三日間利用するオートキャンプ場しか考えていないとの事です。

さて、概要とチケット販売について調べた所前文に書いた地元への経済効果であるが、河口湖町・裾野市・松田町は、観客と、バスが溢れるほどになるとありますが、御殿場市・地元の小山町は? 通過点にしかならないと考えられます。

今回概要を調べてみて、地元には、渋滞は無く、経済効果も期待できないが、松田町・裾野市・河口湖町には、経済効果があるが、渋滞の迷惑を掛けてしまう様な気がするが? 自分としては地元小山に経済効果が欲しいと思うので、たかが三日間の渋滞は我慢出来なかなとつくづく考えさせられます。

広報青年委員会主催の標記コンクールの作品募集期間を一月三十一日(水)まで延長しますので、皆様奮ってご応募ください。

写真コンクール のお知らせ

計報
当協会監事(株式会社和太組代表取締役) 梶 喜一様(享年六十一歳)は、平成十八年十一月六日病氣療養中のところ薬石効なく御逝去されましたので、謹んでお知らせいたします。

梶様には、平成十一年度より当協会並びに沼津地区建設業協同組合の監事、また、平成十二年度より建設業労働災害防止協会静岡県支部沼津分会の監事を務められ、更には、昭和五十九年度より社団法人静岡県土木施工管理技士会沼津支部の代議員を務められ、当協会並びに当業界の発展のため、大変御尽力を賜りました。

謹んで心より御冥福をお祈り申し上げます。